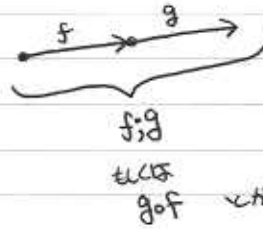
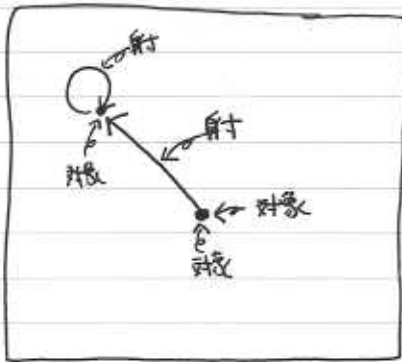


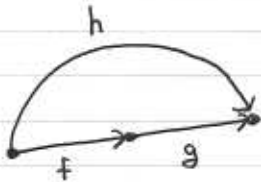
圏



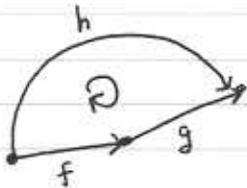
こういう図を
図式という。

$f;g$ は図式的、
 $g \cdot f$ は関数的

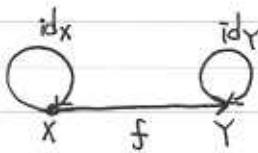
圏は対象と射から成る。



$f;g$ は必ずしも h ではない。



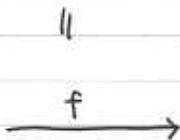
$f;g = h$ なら可換という。
D 記号をかく。



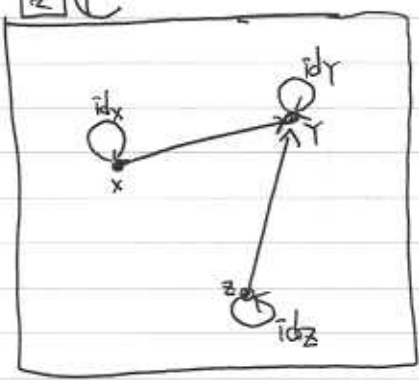
id_X ... 恒等射

$$f \circ id_Y = f$$

$$id_X \circ f = f$$

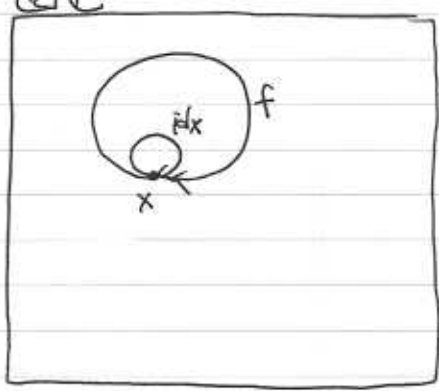


図C



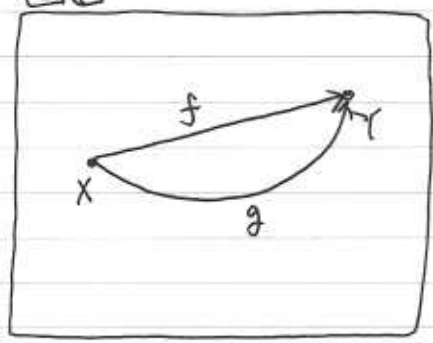
どの対象にも必ず
恒等射はある。
しかしめんどうなので
省略される

図C



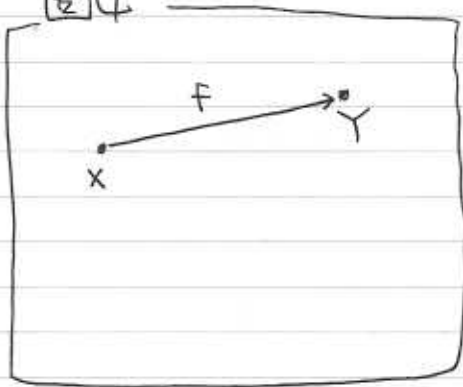
この圏の射は
 $id_x, f, f \circ id_x, f \circ f \circ id_x, \dots$

図C



X, Y 間への射を
集合になっている
 $Hom_C(X, Y) = \{f, g\}$
としたりする。 $\mathcal{C}(X, Y)$ と書く。

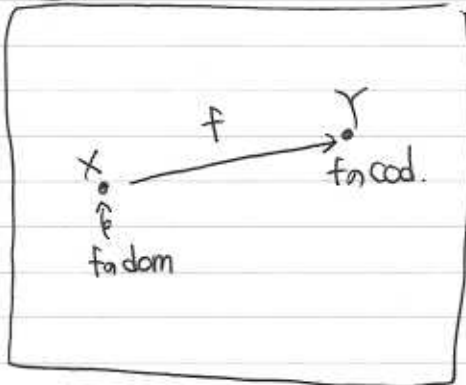
例 ①



f は
 $f: X \longrightarrow Y$ とか

$X \xrightarrow{f} Y$ とかかいた=1する。

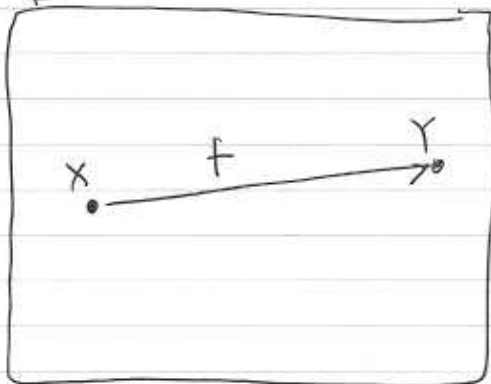
②



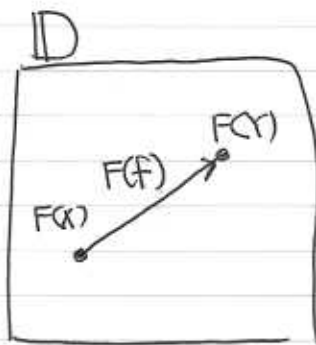
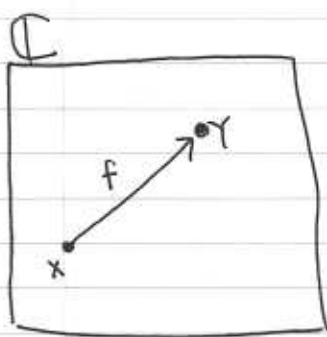
f の dom. は X

f の cod. は Y . とかかいた=1する。

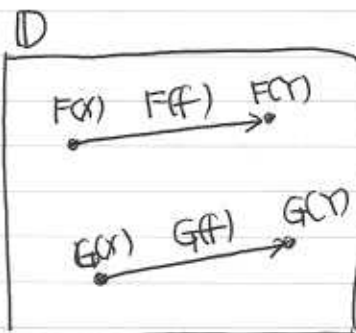
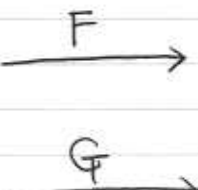
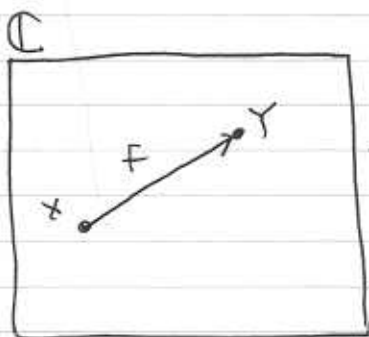
③



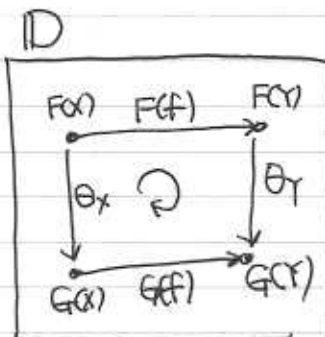
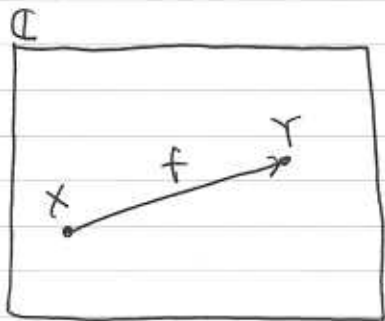
$f(X) = Y$ とかかいた=1する。



$F: C \rightarrow D$



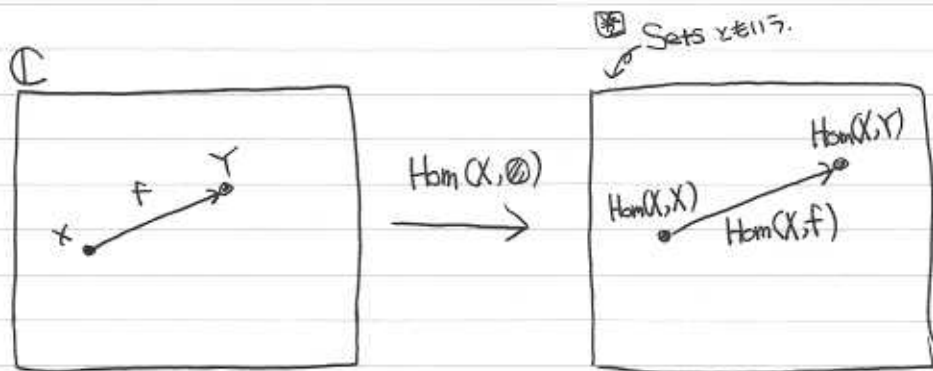
$F(X)=G(X)$ の
可能性もある。



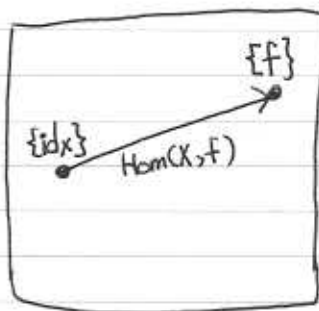
このような可換図式を満たす θ を自然変換という。

$\theta: F \rightarrow G$

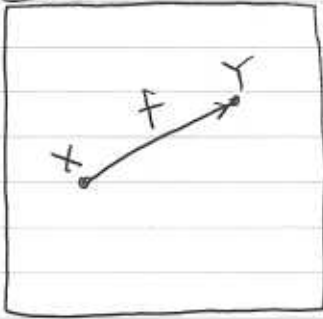
南午の例. 共変 Hom 南午. $\text{Hom}_{\mathbb{C}}(X, \mathbb{C}) \cong h_X(\mathbb{C})$ とおくと



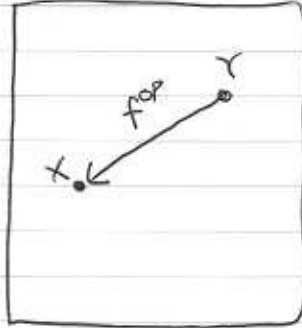
// Homが対象になっている。



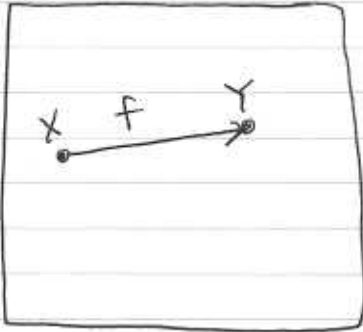
①



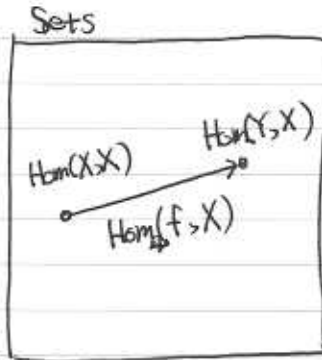
② \mathbb{C}^{op} 双对偶



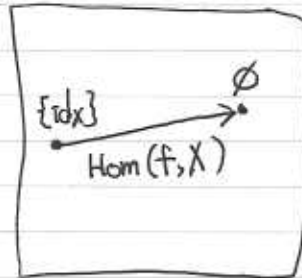
③



反变 Hom 函子
 $\text{Hom}_{\mathbb{C}}(\otimes, X)$



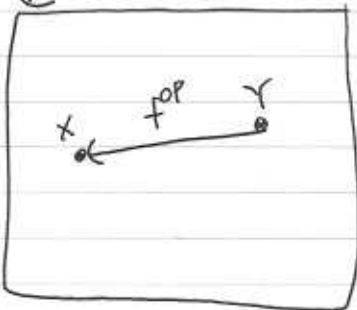
||



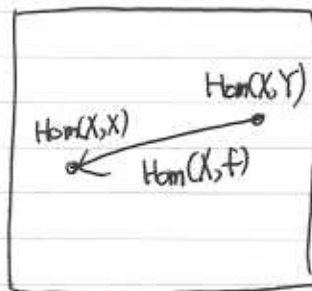
~~Hom(X, X)~~

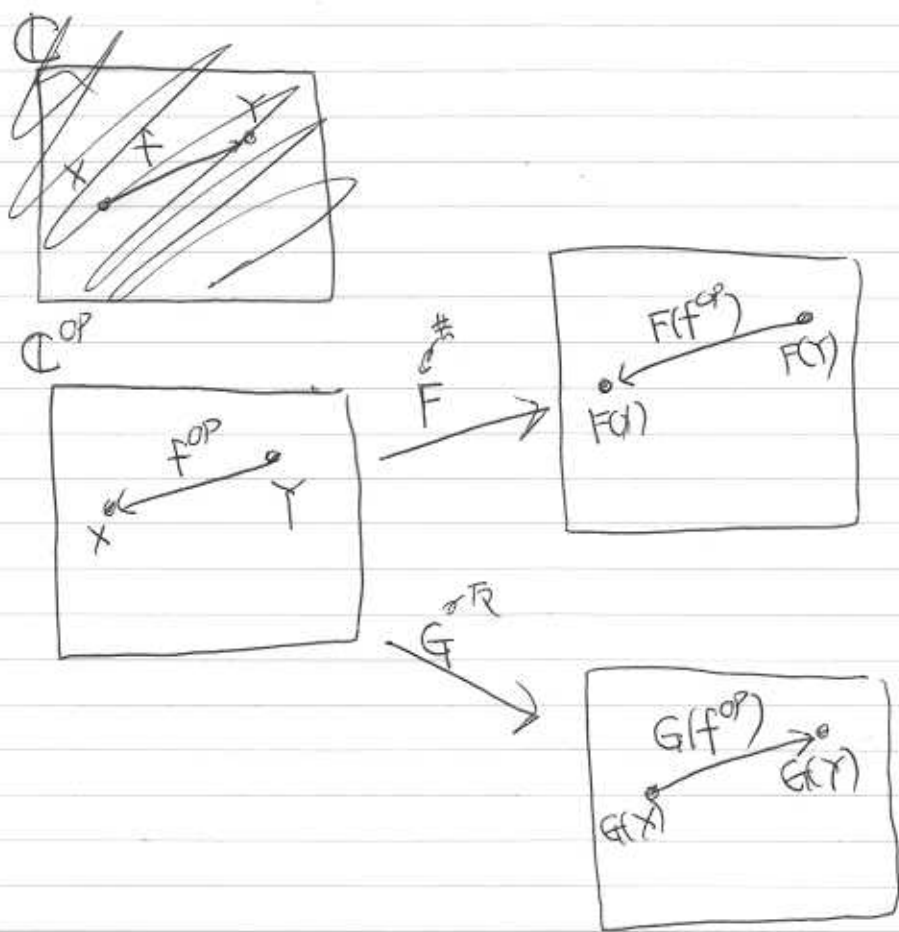
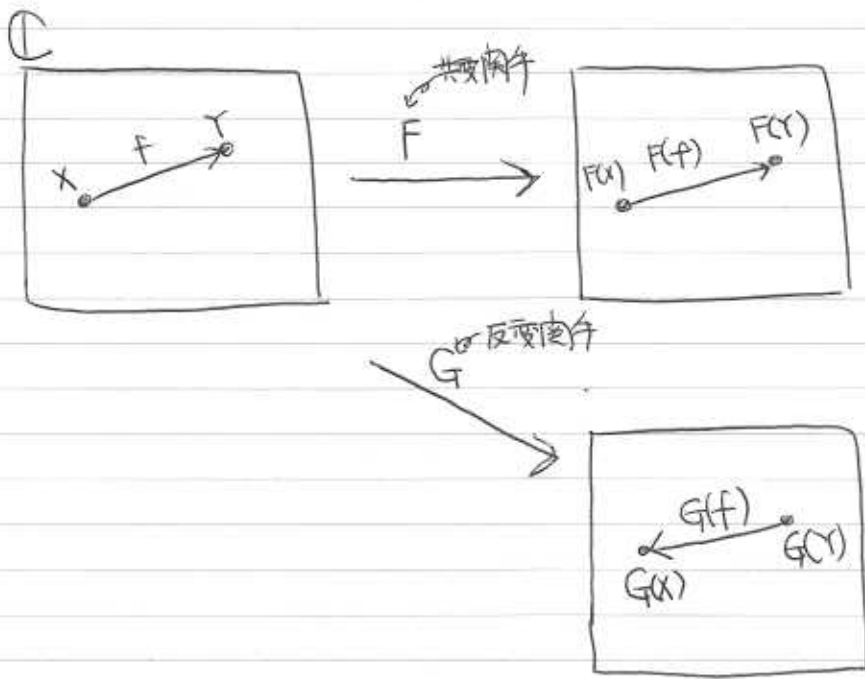
||

\mathbb{C}^{op}



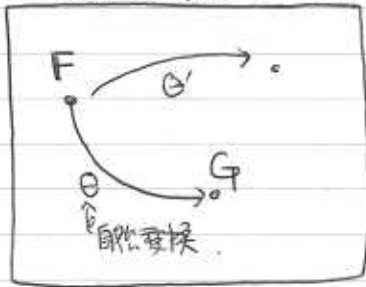
$\text{Hom}_{\mathbb{C}}(X, \otimes)$





関手 $F, G, \dots : \mathbb{C} \longrightarrow \mathbb{D}$

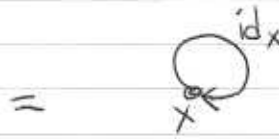
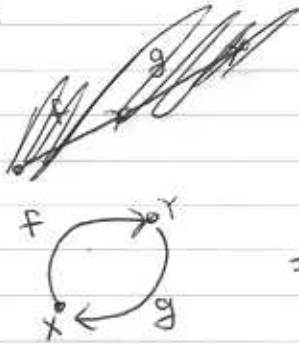
Functor (\mathbb{C}, \mathbb{D}) ... 関手の圏 ... $\text{Fun}(\mathbb{C}, \mathbb{D})$ と書く.



関手が対象で
自然変換が射
になっている。
る。

$$\text{Nat}(F, G) := \text{Hom}_{\text{Fun}(\mathbb{C}, \mathbb{D})}(F, G)$$

同型射

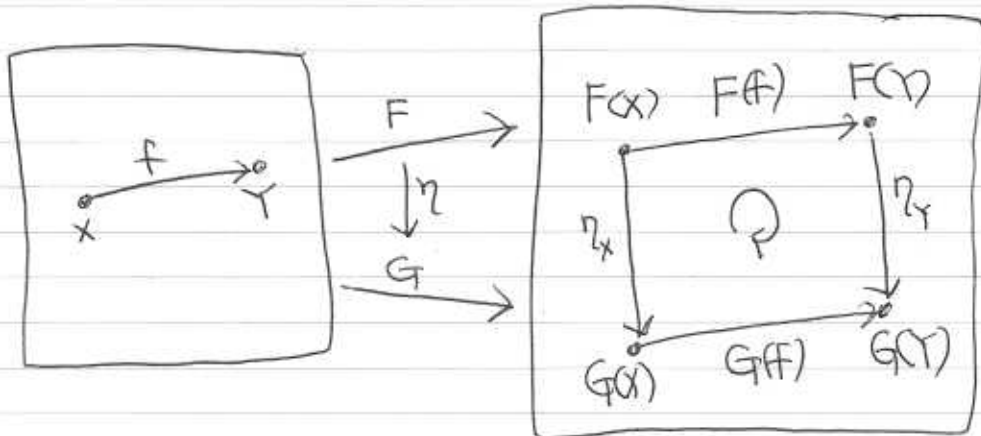


となる f
(g は f の逆射)

(2つの関手か)
自然同型.

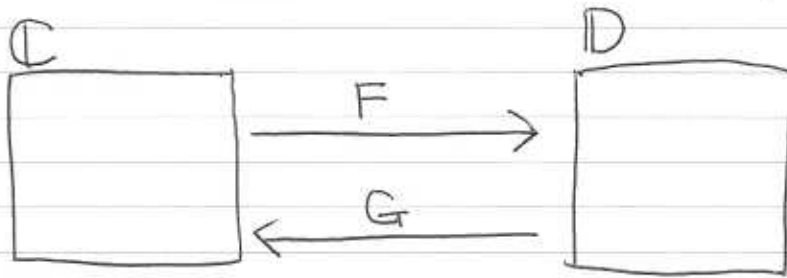
関手 $F, G: \mathbb{C} \rightarrow \mathbb{D}$

自然変換 $\eta: F \rightarrow G$

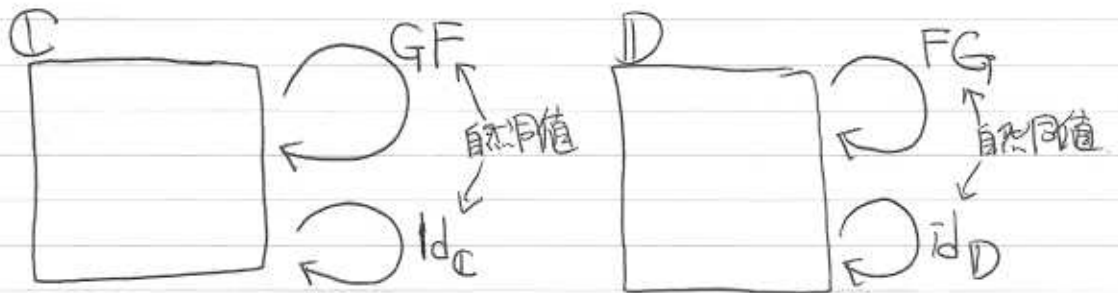


η_X と η_Y とかが
同型射.

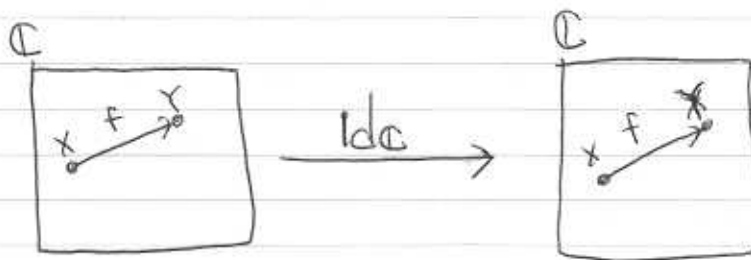
同値 (圏 \mathcal{C} と \mathcal{D} の)



かゝるとして

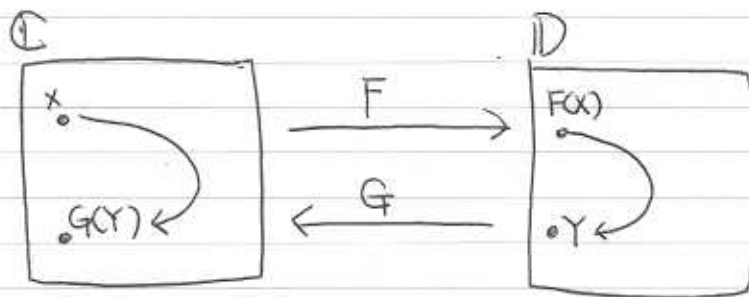


恒等関数



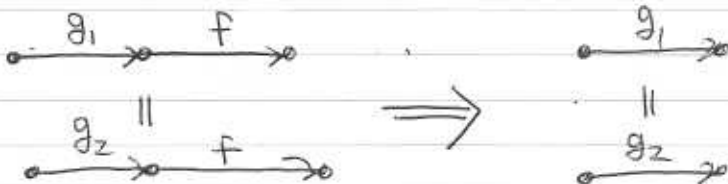
なにもしない

随伴関数 (F, G 間)

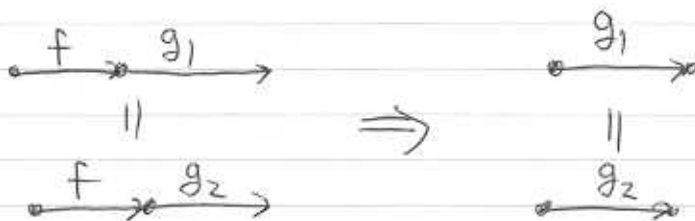


$$\text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, G(Y)) = \text{Hom}_{\mathcal{D}}(F(X), Y)$$

モノ射 (f 間)



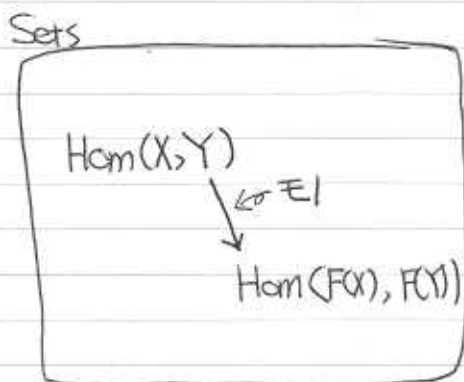
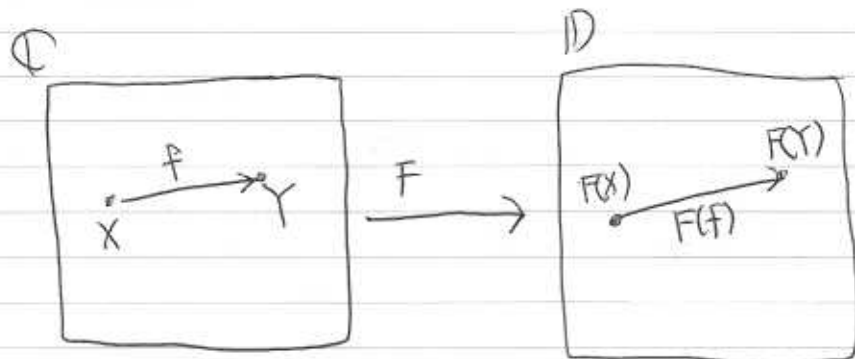
エピ射 (f 間)



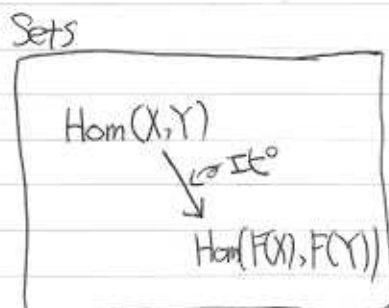
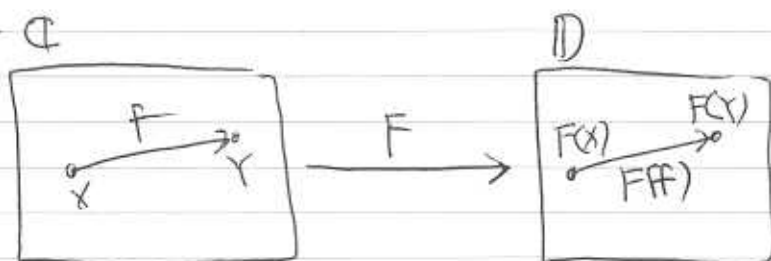
全単射 (同型射 2 間)

モノからエピ

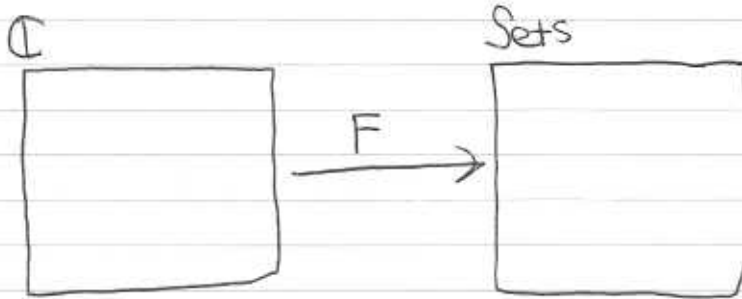
忠实函子



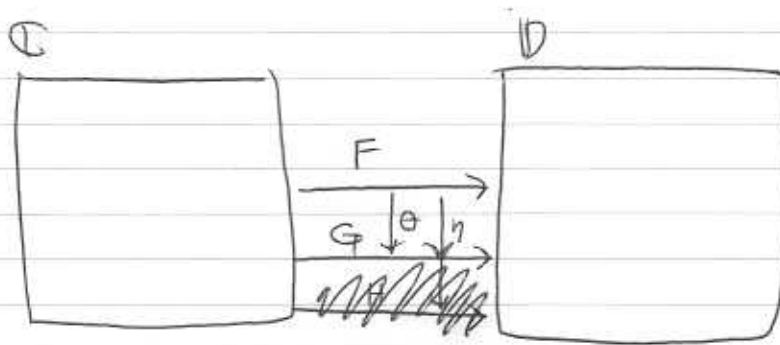
充満



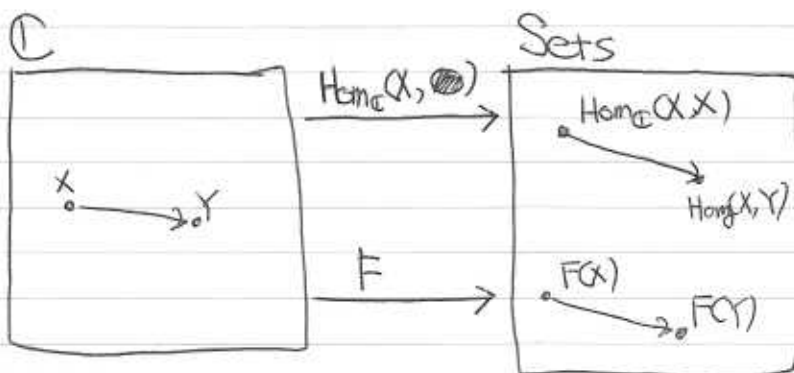
表現可能な手.



Setsへの関手



$$\theta, \eta, \dots \in \text{Nat}(F, G)$$



米田の補題

$$\text{Nat}(\text{Hom}_C(X, \otimes), F) \xrightarrow{\text{全単射}} FCA$$